

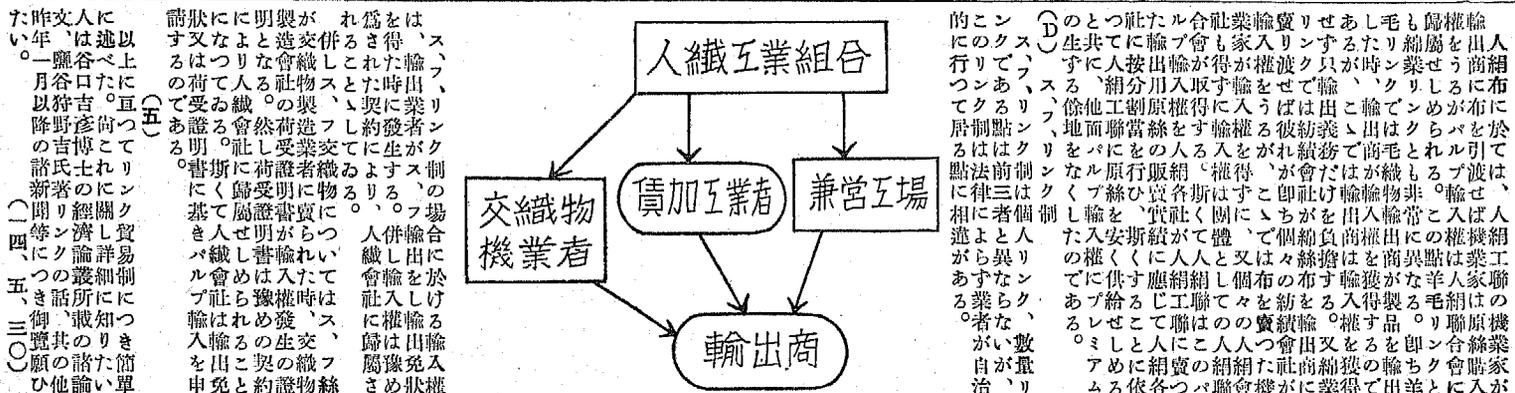


斯様にリンク制は理論的には輸入を緩和して輸出を振興するが、我が國の受取輸出の多くはリンクの仕方に依つて色々に區別され、且つ貿易收支に及ぼす効果を異にする。次にリンク制の主な形態について見よう。

第一に輸入に輸出をリンクするが、輸出に輸入をリンクするに依つて輸出義務制と輸入権利制に分けられる。然らば輸出義務制と輸入権利制では何れがよいか。我が國の現状よりすれば輸入権利制の方がよいと言はれて居る。何故ならば、我が國の輸出義務制をとつて将来の輸出を見返りに輸入を許可したのでは、其の輸出が果して實現したかどうか不安あり、萬一輸出が實現しない場合には輸入を許可してつた後であるから、輸入を回復する手段がない。反して、既に輸出した輸入を許可するならば、右の不安はなく、且つ将来の輸入は得るがため競つて輸出するから輸出奨励となる。

然し現実の過程に於ては、リンク制は輸入原料不足を来して居る場合に之を緩和する方法として採用される場合が多いから、先づ原料の輸入を許可して一定期間にその製品の輸出を義務付け(輸出義務制)その輸出に基いて次の原料輸入を許可する(輸入権利制)二つの制度を併用して居る場合が多い。

次に繊維工業関係に於けるリンク制について簡単に述べよう。(A)羊毛リンク制に實施された羊毛リンクは昭和十三年三月十五日に輸出義務制と羊毛リンクとを併用され、個人輸入権利制と輸出義務制とが併用される。然らば其機構はどうか。説明の便宜上主な輸出羊毛製品の生産者(○は商業者、□は工業者、↓は商品流通の方向)を圖示して居る團體名を示す。



先づ海外より注文のあつた場合、メーカの工業家は其の注文書を日本羊毛工業会に提出し、同会が各工場に注文を配分する。工場は原料を供給し、製品を輸出する。この過程で、各関係者は協同して生産と輸出を促進する。

このように、羊毛工業界では生産者、輸出業者、加工業者が連携して、効率的な生産と輸出を実現している。これはリンク制の効果を最大限に引き出すための重要な仕組みである。

理論と實際とを主体とする

工業大學の全貌

江 端 爲 夫

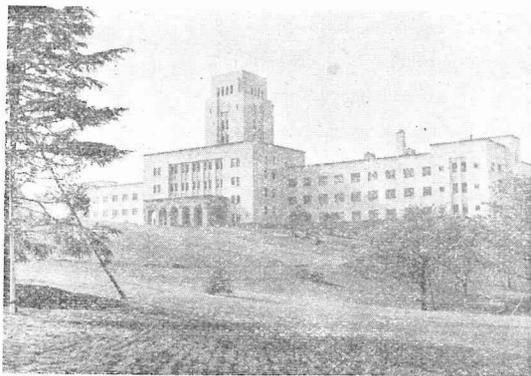
(註) 昨年東京工業大學紡織學科に入學致々として勉學してゐる江端爲夫氏(絲二三)は非常時局打解の大きな力を擔ふ工業界の指導中樞をなす同大學を紹介された。將來其の方面に志望を有する諸氏の爲に御参考に供する。尙本年度の入學試験問題も母校原田教授宛送られてあり、同教授の御厚意により掲載した次第である。(編輯室)

昭和四年昇格と同時に蔵前より帝都の西方目黒區大岡山に移轉せるものである。昭和八年本館の大建築が成ると共に、漸く諸種の設備も整ひ來り、大學としての面目も出来上つたのであるが、造園等の工事は今も尙繼續せられ、近き將來に完成するであらう。八萬坪にも達せんとする本敷地は大體岡の上に位置し、遠く狭苦しき都心を離れ、景色豊かにして田園都市の感を抱かしむるものがある。此臺上からは千古の雪を頂く富嶽の雄大な姿を遠望する事が出来、蒼空に巍然として立つ白聖の殿堂こそは、正に若き學徒の憧憬となつてゐる。これぞ眞に將來日本を背負つて立つ若きエンゲニヤの温床である。此廣大なる校庭には近代的建築の粹を凝した各科の工場、分析實驗室水力實驗室、内燃機關實驗室等が点在し、緑したる中を高壓線が走り、又電車の高架線も横斷し、建築材料研究所、資源化學研究所等の建物もあり、人工美の調和の中に收まつてゐる。

本學が大學に昇格して以來十星霜を閲し、益々確乎たる地盤を築きつつあるが、翻つて考へるに、明治十四年創めて東京淺草區蔵前の地に東京職工學校を興したるに端を發してゐる。明治廿三年に東京工業學校と改稱せられ、次いで明治廿四年東京高等工業學校となり、昭和四年東京工業大學に昇格した。其の間幾多の變遷の経路を辿つて今日に至つたもので、

に依りて体系づけられた學問を實際に應用して行く所に主眼が置かれて居るが、現實の情勢に於ては兩方面を併用する所に、大なる價值を見出し得ると考へられる。

入學第一年度には、ミツチリ基礎學科を學び、頭を作つてから第二年度より愈々専門の學科に入つて行く段取りになつてゐる。基礎學科としては、數學、力學、物理學、物理學實驗、化學、化學實驗等である。第三年度には大體卒業論文を作成する事に費される。次に各學科別に檢



討論をして見る。染料化學科、窯業學科、電氣化學科、紡織學科、航空機工學科は本邦に於ては本學に於てのみ見られる存在である。即ち斯界に於ける最高の學府にして、而も唯一のものである。染料化學科はいふ迄もなく、染料並びに染色を考究するが、纖維工業とは密接不離の關係にある。此科には新進氣鋭の上野教授、菱山助教の居られる事を特筆すべきであらう。紡織學科では纖維工業界に重きをなす齋藤教授、生絲の研究で有名な榑橋教授、人造纖維化學の大家厚木講師等を擧げる事が出来るが、之等の教授の下で世界に覇をなす纖維工學を學ぶのであ

る。窯業學科とは名稱の示す如き狭き意味の研究をなすに止まらず、無機化學工學全般に就いての知識を收得するものである。應用化學科では耐火塗料で有名な内田壯教授も居られ、電氣化學科には斯界に幾多貢獻をなせる加藤與五郎教授、機械工學科では内燃機關の權威淺川教授、水力学の第一人者松本容吉教授の存在を忘れる事が出来ないであらう。電氣工學科にありては中村幸之助學長を始め學生の薫育に當られてゐる。本館の設計は建築學科の教授の手になるものにして世界的に有名な耐震構造を有し、學界の注目の的となつてゐる。アトリエに南薰造畫伯をむかへて、手を取つての指導を受け、航空機工學科は今まで餘り顧られなかつた航空エンヂンのマス・プロダクションを研究する事が使命で、これを計るために創設されたのである。將來我が航空界が期待する所多し事であらう。尙今年度開講の豫定になつてゐる化學工學科は化學工業に於ける優秀なる機械製作の研究のために設けられるものである。

基礎學科方面には次に擧げる如き特色ある教授が居られる事は學生の誇りとする所である。確率論の泰斗渡邊孫一郎教授が物理系の學生に數學の講義をされる久末助教が力學の講義を擔當せられ原稿もなく滔々と講義をされるので學生の信望を集めてゐる。物理學教室には本邦に於ては唯一の而も世界に於ても有數なる絕對零度の測定装置を有してゐるが、此の指導者木下教授は、熱血の士にして、講義は興味本位、學生の心にアツピールして行く所など、正に異彩である。又竹内時男助教は世界の物理學者に伍して新興物理學の尖端を歩まれ、著書に講演に、ラヂオの放送に、一つとして可ならざるものはない。分析化學教室の加藤助教は磊落そのものにして學生と共に野球でも、庭球でも、音楽でも、作曲でもものするといふ風で、學生間に甚だ親まな思ふ。此外多數居られるが枚舉に達なき程である。

今や工科萬能の時代であるから機械工學科等は就職口が多過ぎて、選擇に迷ふ程である。現在工技術者登録制度の適用を受けてゐないのは、染料化學科、紡織學科のみで此の適用を受けてゐる學科の就職状況の盛況なるは云ふに及ばず、受けてゐない學科でも就職難等の恐れは更に無い。戦争が終末を告げた曉には平和工業も漸次隆盛に向ひ北、中、南支の新天地の開発と共に此方面へ大いに進展するであらうと觀測せられるのは一般である。

最後に學友會を御紹介する事にする。庭球部、野球部、柔道部、陸上競技部、蹴球部、籠球部、山岳部、乗馬部、水泳部、卓球部、排球部、射撃部、雜誌部、文藝部、講演部、音楽部、及びラゲビー部等の存在する事は勿論であるが、此外共済部、端艇部、新聞部、及びモーター研究部等もある。荒川の河岸、尾久に艇庫を有し研究に依つて疲れた頭腦を休むべく、輕快に漕いで、水上の氣分を満喫するの甚だ爽快さを覺えるであらう。

新聞部よりは隔週、工業大學藏前新聞が發行され、學内の情報をもとより、工業界の動向を示すべく其任に當つて居る。共済部に於ては學生のための食堂を經營したり、學用品の販賣を行つたり、内職の世話をなしたり、學生の利便を計つてゐる。モーター研究部は自動車操縦を体得させる事にあるが、時には遠距離のドライブ會等を催し併せて學生の體位向上をねらつてゐる邊り、一石二鳥といふ事が出来るであらう。

本年は大學昇格十週年創立以來五十八週年の歳月を閲するので卒業生は夥しい數に登り、工業界に蔵前出身者が重要な地位を占めてゐる事は申す迄もなく、今後一層確乎たる歩みを續けるであらう事は想像に難くない所である。

今や我國は興亞の大業を完成すべく、涙ぐましく奮闘を續けてゐるが、此目的遂行のためには是非とも青年は工業に對し、全幅の努力を吝まぬ事が肝要にして始めて此壯業は達成されるであらう。故に此方面に大なる關心を有する者は進んで來學せられ、將來斯界に貢獻するべきと思ふ。茲に於てか在校生諸君の本學に學ばれる事を大いに歡迎するものであらう。

(五月十七日)

東京工業大學 入學試験問題

英語 (英文和譯)

(1) The fields of investigation were always multifarious, and have multiplied in the recent centuries. And how different have been the motives of investigators! With the old Greeks (who had leisure) the quest of knowledge was aristocratic, largely for the sake of knowing, and usually without the thought of gain or the wish to benefit mankind. Modern science is more commonly impelled or directed in its researches by the desire to master Nature by understanding her, and often have social, Material, economic betterment for its aim. It would prove itself useful, is philanthropic, benevolent, or industrial, seeking material results and even gross rewards. It has not the detachment of Greek science. Yet our best scientists follow knowledge for its own sake, and investigate for the sake of the investigation. Said Simon Newcomb.

"The true man of science has no such expression in his vocabulary as useful knowledge."

(2) Describe the average Western man and you describe the American, from east to west, from north to south, everywhere and always the same - masterful, aggressive, unscrupulous, egotistic, at once good-natured and brutal, kind if you do not cross him, ruthless if you do, greedy, ambitious, self reliant, active for the sake of activity, intelligent and unintellectual, quickwitted and cross, contemptuous of ideas but amorous of devices, valuing nothing but success, recognising nothing but the actual, Man in the concrete, undisturbed by spiritual life, the master of methods and slave of things, and therefore the conqueror of the world, the unquestioning, the undoubting, the child with the muscles of a man, the European stripped bare, and shown for what he is a predatory, unreflecting, Naif, preciously accomplished brute. (以上二時間)

數學

- 1. (a) 方程式 x^n + 1 = 0 の n 個の根を表はす式ヲ書ケ。
(b) 點(1,2)ヨリ直線 2x + y = 1 に下シテ垂線ノ足ノ座標ヲ求ム。
2. x + z = yf(x^2 - z^2) ナル中 z = dz/dx + y dz/dy ヲ求ム。
3. 次ノ曲線ノ極大、極小及ビ彎曲點ヲ求メ、次ニソノ曲線ノ概形ヲ描ケ。
y = 3x^5 - 5x^3 + 1
4. 次ノ積分ヲ求ム。
(a) ∫ log(x + √(x^2 + 1)) dx
(b) ∫ dx / (2 + sin 2x)

- 5. y = -1 + √(4 - x^2) (但シ y > 0) ナル曲線ガ x 軸ノマハリニ廻轉シテ生ズル曲面ノ表面積ヲ求ム。
注意 1 (b) 及ビ 3, 5. = 於ケル x, y ハ直角座標トスル。
(以上三時間)

物理學

- 1. 完全氣體ヲ斷熱的ニ壓縮スル時ノ仕事ノ量ト氣體ノ溫度ノ昇リトノ關係ヲ求メヨ。
2. 一ツノ棒磁石ヲ磁氣子午面ニ於テ水平ニ静止スル様細イ糸ヲ吊ス。次ニ絲ノ上端ヲ角リダケ振ツタトコロ、磁石ハ角リダケ偏ツテ静止シタ。糸ノ振リノ常數ヲ K、磁石ノ磁氣能率ヲ M トシテ、地磁氣ノ水平分力ヲ求メヨ。
3. 二面ガ平行ナ單光軸結晶板ノ一面ニ垂直ニ單色ノ自然光ヲ投射スル。光軸ハ投射光線ニ對シテ傾イテキル。正及ビ負結晶ノ兩場合ニ就イテ主要面(光線ト光軸トヲ含ム平面)内ニ於ケル、板内及板外ノ光線ヲ Huygensノ作圖ヲ以テ示セ。
(以上二時間)

化學

- (1) 或溫度、或壓力ノ本ニ於テ、眞空容器ヲ秤量シタルニ、153.697gmニシテ、同温同壓ノ本ニ、コノ容器ニ鹽素ガスヲ充シタラ、重量156.844gmトナリ、酸素ガスヲ充シタラ155.108gmトナル。鹽素ノ分子量如何(計算ノ理由ヲ解説スルコト)。
(2) ハロゲン族元素(造鹽元素)ノ主要性質ヲ擧ゲテ、相互ニ比較對稱セヨ。
(3) 次ノ分子式ヲ有スル酸素化合物ノ名稱及構造式ヲ示セ。
(a) N2O4 (b) Na2O2
(c) PbO2 (d) Mn2O7
(e) OsO4
(4) 1モルノマグネシウム薄片ニ1モルノ沃化エチルトソノ約3倍容ノ純エーテルトノ混合液ヲ加ヘ、反應ヲ終結セシメタル後、コレヲ氷冷シツツ更ニ1モルノアセトンヲ滴下シ、最後ニ粉碎セル氷ヲ投入スル。コノ場合ニ起ル化學反應ヲ反應式ヲ用ヒテ詳細ニ示セ。
(5) 次ノ化合物ノ構造式ヲ問フ。
(i) アクロレイン (b) アセトニトリル
(c) アントラキノン (d) ヒクリン酸
(e) フタル酸 (f) プタジエン酸
(g) インドール (h) フェニルヒドラゼン
(i) アセトアニリド (j) ヒドロキノン
(以上三時間)

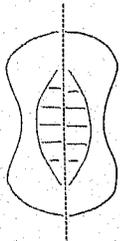
幾何語、獨逸語ハ略ス

自働蘭切開分離機に就て

岡部彌平

(註) 本記事は過般在滿同窓の某氏より母校倉澤教授宛、蘭切開分離機の有無問ひ合せがあり、同教授が岡部氏に照會したものの回答を編輯子が簡単に改筆したるものにして、編輯方面に切望の該筆が吾同窓により發明された事を御照會すべく同教授の御厚意により掲載したものである。

御照會に預かりました蘭切開分離機は小生の發明品でありまして、昨年六月考案致し、已に十臺製造目下各方面の大工場より注文を受けて居ります。滿洲方面にも已に某會社には見積りを呈出しました。本機は先づ乾蘭の切開處理としては他に未だ代るべきものなく、大体次の如き機能を有するものであります。
一、能率 乾蘭切開量は十時間に二百貫(出來上蘭層量約百貫)
二、動力 一馬力三臺程度
三、人員 切開女工一人(對一臺)他整理工一人(對二臺)
四、効果 蘭は圓の如く必ず縦に二つに切斷し、(加減により切斷せ



す多少蘭層を付け置くことは自由なり。蘭層と蘭とは自然分離するを得。
柞蠶蘭は已に試験済みでありますから心配は要りません。只柞蠶蘭は蘭形大なる爲機械の内容に於て稍巾を増加することになつてゐます。切開分離機は蘭槽、切開機、除蛹機、連結の四部より組立てられ、一組の値段は壹千圓であります。尙蘭層處理の費蘭層も注文に依つては設計して居ます。家蠶蘭の場合には切開分離機にかける前に蘭毛羽取機に一回かける方が作業上能率が上ります。故に同時に毛羽取機を御推めします。之は次の如き機能でありまして、蘭切開機三臺に付毛羽取機二臺の割合に設計して居ります。
岡部式自働蘭毛羽取機
一、能率 十時間乾蘭原量 三百貫
二、動力 一馬力三臺乃至四臺
三、人員 毛羽取女工一臺に付二人 雜用 二臺に付一人
之は一臺の賣價六百圓にして三臺以上の場合には五百圓であります。

滿支旅行漫筆

Y K 生

六、中澤周蔵さん

北支在住の同窓生は僅かに二、三名に過ぎなかつた。青島には中村治三郎氏(紡一〇)と小林龍太氏(紡一七)の二氏が居られ、出發前にあつたつて、野口さんからは非面會して来るやうに嚴命を受けた然し、知らない他國の一人旅の悲しきには舉措進退思ふに任せず、遂此の誓約を果さなかつた事は甚だ申し譯けのない次第である。

製絲一回出の中澤周蔵さんには、幸ひに御目にかゝることが出来た。尤も中澤さんには是非とも會はなければならぬ用件を持つて居た。

中澤さんは人も知る同窓唯一の支那通である。嘗て時報で、針塚先生から氏の異彩ある活動の一端を紹介されたことがあつた。今更ら其の御紹介を蒸し返す(す)のでは無いが、上海に興きた労働争議の眞只中に、單身無防備のまま飛び込んで『日本人此所にあり』と云ふ男まゝの意氣を示し、執拗なクローリーの出鼻を挫き、之を取り抑えたは有名な逸話である如何に支那通でもこんな壯勇は、單なる支那通だけでは出来る處當ではない。以て其の人となりを忖度するに足る。私も、卒業以來トント御目にかゝる機會が無かつたから、氏の風貌等全然記憶に無かつたが、此の絶贊に値ひする吾等のホープ、吾が中澤さんが、華中蠶絲に居ると信じたから、大に氣を強ふして上海迄渡つたのである。所が此の待望が完全にうらぎられて、上海に居られないことを知り、非常な失望を覺えた。中澤さんは何故華中蠶絲を棄てたか? 之が私の上海陸第一歩の疑問であつた。

蠶絲業を振り翳して支那全土を活躍馳驅する必ずしも小きき舞臺とは言へない。従來の経歴から推して中澤さんの活

動場面に於いては向きとも思はれた。そして吾等の運命も氏の存在によつて、希望に充てる光明がもたらされることが豫想して居た。然るに、其の人が今上海にない。落膽は遂に詰問に變つて是非其の邊を確かめて置かうと、青島の市街なる目的に加はつて来た。青島の市街は幸ひにも支那暴民の埒外にたつた。たゞ紡績會社だけは彼等野獸の牙にかけられて、無惨な残骸を醜く地面に横たへなければならなかつた。中澤さんの會社も紡績會社である以上御多聞に洩れなかつた上海の華中蠶絲会社の筆頭取締役鈴木格三郎氏其人である。社長が同じであるだけでも中澤さんの存在が高所から見ても上海にある方が正しいし、且つこつちの都合も良いと勝手な理窟をつけて見る。粉雪がサラサラと吹雪いて、凍りつく様な大道を車を飛ばせて廣儲路に在る中華興業を訪れた所、中澤さんが出て來られて、互に久闊の挨拶を取り交はされた。破壊された工場は目下修理中で、事務所も倉庫風の建物内に假託して居るらしく質素なものであつた。

中澤さんの風貌を越えて色々申述べては無様ではあるが、感じた事を卒直に自白すると、支那の大親分とでも云ひたいやうな(尤も自分は支那大親分を見た事もないがたゞ概念的に)悠然と迫らざる裏に犯し難き感があつて、どこそこ日本人臭味を脱却しきつた大陸人とも云ふべき感じである。丈は六尺豊かで、小ぶりと、頭はヤンギリに無髭、邊服を飾らず、童顔にして悠々闊歩する様は一寸日本人はなれして居て、コセつた姿が微塵も見受けられない。長年支那人を手がけた修養の極致とでも云ふべきものか! 兎に角、大陸的に充分信頼出来る何

者かを藏して居ることを強く印象づけられた。華中蠶絲もこんな人を要位の椅子に据ゑて置かなければ、大體事務所から支那の蠶絲をあつかふ格好がつかないと思つた。小造りで眼ばかり徒に鋭くせつちかで、精神一點張りの日本人だけでは、支那人の寄りつきにくいこと必定である。如何も支那人は、日本的な日本人は、にが手らしい。

此所の社長鈴木さんには終始非常にお世話になつた。濟南、天津と電報をかけた下きつて、先ききで宿迄心配していただいた事は、外地旅行の苦惱をなめた者で無ければ其の感激はわからない。鈴木さんは青島には随分長く住んで居らるらしい。青島日本人會の元老で、聲望在留民を歴し、敬敬の的となつて居る。其の風貌、柔和にして迫らざる應揚さは自ら親しみを招くものがあつて、中澤さん的一脉相通するものを感じる。

總じて支那に長くあつて、支那の國民性に徹した方々は、先づ風貌から支那の好尚に投ずるものと見える。支那人位は形式を尊ぶ國民は無いのだから、先づ自分の外見の形式を整ひて應對せねばならない。こんな修養鍛練が長い間の培養によつて、自ら積まれ遂に大人格を形づくものであらう。其の接觸は頗る流暢で態度は實に堂々たるものである。

中澤さんから聞いた支那人應待覺え書によると、性急ではいけない、潔癖ではいけない、單刀直入ではいけない、道は迂遠で無ければいけない、表面の形式を飽達尊ばなければいけない、形式の裏面は決して表面通りではいけない、等々。いけない盡しでややこしいが、一々日本人と對庶的な對の性質を持つて居るやうである。之だから日支合作で支那の平和産業のリンケージを作るとは容易な業で無いのだ。又かゝる性質をよく飲み込んでかゝらないことには豫期の成果を擧げることが至難なのである。

此の説明は領事さんからも兼々聽いた所に一致する。平和産業に限り即戦即決は大分困難らしい模様であつた。

大分横道に外れたが、中澤さんの御案内で此の會社を一巡し、支那人の勞働状況も見せて貰つた。

織機は一千台あり、日産三千反の捺染織布が出来ると云ふ。例の支那式華美を極めた鮮麗なもので、こんな日本の家庭にあつても悪くないと思つた。紡垂も二万五千垂程あつた、長いことお邪魔し有益な話を澤山承はつて。大いに收穫を上げて歸ることが出来た、例の疑問は書くことが出来なくなつた。今は釋然とした考へて氏の成功を祈つて居る。

七、華中蠶絲のことども  
日本内地に於ては、華中蠶絲の將來に對して、各人各様の立場から其の成り行きを、眼を据えて凝視して居る。種屋は種屋の立場から、製絲家は製絲家の立場から、資本家は投資の對照として、爲政者は内地の業者を擁護せんとする立場から、凡そ斯業に少してでもかゝりのある内地人は、あらゆる角度から之を眺めて微細な動きも見がすまいとつとめて居る。言はば、内地の蠶絲人の焦點に立つて働いて居るやうなものである。華中蠶絲の當局者には洵にお氣の毒だが、それだけ日本に重大な關係を有つて居るから仕方が無い。

人材の登用についても亦然りである。地方からも、學校からも、廣く人材を至公至平に集めて、いやしくも依怙の疑念を残してはならない。どこの學校の卒業生でも新興大陸の力強き進歩に心から憧れを覺え、虎視眈々として渡支のチャンスを狙つて居るのだ。之が又新日本青年の進むべき道である。

華中蠶絲は最初コンツェルンの各社から夫々人材を移した、僕の渡支した當時は華中蠶絲に實在しながら俸給は各社から出て居り且つ各社の社員であつたやうだ。然し極めて最近此の關係が斷た

れて華中蠶絲会社の社員に獨立し、社員の等級も定まり、名實共に整備した百三十餘名の大家族となつたと聞く。四月以降の人事はこの會社にも累はされぬ華中蠶絲独自の信念に基いてドシ／＼人材を集めると云ふ。

吾が校からの希望者も相當に多いやうだが、未だ其の選に當らないのは遺憾である。例へば蠶種を内地から入れたるやうに、日本内地の適當な公的機關と結びついて、多少でも人材を廣く深く物色する必要はないか。現在の状況では此の點、吾々が最も不利の立場に置かれてあつて切角視察を遂げながら好轉の道のないことは遺憾に堪えない。

華中蠶絲の成功は日本にとつて、絶對的に必要な條件である。しるにもかゝわらず、此の成功を妨げるやうな困難な事實が内外共に山積して居る状況である前に述べたやうに、租界では抗日分子が蠢動して、華中の業態を凡ゆる方面から妨害して居るし、工場、商行方面の治安は不不變全くなく、従つて原料の購入が容易でないし、日本人對支那人間の俸給問題にも多少相剋摩擦があるやうだし蠶種製造者のインテリ階級が必ずしも此の組織を謳歌しないし、等々。考へ來ると現地當局の苦惱の程も察せられて、感激に堪えない次第である。生命を的にした軍人の立派さとは何等變ることのない酷苦が拂はれて居るのだ。

日本に於て、批判的な立場に立つて漫然と見て居るやうなそんな生やさしい現地ではないのだ。従つてそれだけ、有爲なる人的資材の強化を必要と信ずる。此の點は現地當局も充分責任を取り、内地關係者もつとつと關心を持つて良いことと思ふのである。云ふ迄も無く仕事は人を土臺として樹つからである。

中澤さんからは、此の會社の設立當初の種々な事情を承はつた。支那人の國民性も細々と御聞きした、聞けば聞く程支那をよく知つて居る中澤さん等が其の衝にあたる必要のあることを裏書きされる然し此所では筆に載せないことにする。硬的な大試練が今中支蠶絲業地帯の沃野に展開されて居る。此の際、會社の規模に添ふだけの原料藪が集れば、本年の成績は萬々歳である。吾等も其の成功を祈つてやまない。内地人はあらゆる意味で之を應援しなければならぬ。出先き當局も此の援助を心良く迎ひなければならぬと云ふことを痛感した。

然し極めて最近此の關係が斷た

陸軍現役將校學校配屬十五年記念

御親閲を拜受して

生徒主事 行元 自忍

陸軍現役將校學校配屬令實施せられて... 陛下に於ける激勵の辭を方...

御座所に荒木文相を召され給ひ、御親閲... 陛下に於ける激勵の辭を方...

と敢て敢々の要なき所である。而かも此... 陛下に於ける激勵の辭を方...

御親閲拜受の光榮に浴して

養蠶科三學年 小山富治

吾々が本校の學生代表として御親閲に... 陛下に於ける激勵の辭を方...

陛下に於ける激勵の辭を方... 陛下に於ける激勵の辭を方...

以上纏らぬ感想を述べてまして諸君へ御報告と致す次第であります。(完)

母校ニユース

昭和十一年五月十日

進藤憲三大佐退職 昨年八月より母校配属將校として勤められた進藤憲三大佐は三月二十日付豫備役に編入されたので母校を退職される事となり四月八日、同大佐の後任として新任された高木千枝大佐と事務引継ぎをされ講堂に於て辭任の挨拶をなされ、五月廿二日午後二時廿八分上田驛發にて職員、學生多數の見送りを受けて上田を去られ、郷里青森縣東郡野内村淺湯温泉に六月一日開所の淺湯陸軍療養所長に就任された。

高木千枝大佐新任 昭和十二年八月配属され本年三月退職された進藤憲三大佐の後任として高木千枝大佐が長野師範、長野中學と掛持にて母校に配属新任された。同大佐は本縣諏訪町の御出身で明治廿八年東京成城中學卒、同四十年歩兵第廿八聯隊附、樺太駐劄、大正六年滿洲駐劄引續き西比利亞戰役に出征、大正十四年歩兵第廿五聯隊附、札幌師範配属、昭和二年福山第四十一聯隊附、同六年臺北醫學專門學校配属、同十年松本聯隊區司令部附となり現在に至つたもので、温厚にして氣骨あり、凡てに極めて熱心、實行的な武人で訓育上期待される所大なりと信ずる。

林教授「製絲讀本」を著す 母校教授林眞三先生は青年學校職業科教科書として「製絲讀本」(一八〇頁、定價六〇錢、玉研社發行)なる新著を公にされた。最新の製絲技術を懇切且つ平易に述べられたので己に使用の所もあるが此所に其の主なる目次を照し、更に關係諸賢の御使用を御推めする次第である。

中村岩人氏新任 業界の好況に依つて養蠶科は副手機に陥つたので、自營の中村岩人氏(蠶一五)に出馬を願つた。同氏は四月十二日臨時副手を拜命、原蠶部に勤務されることとなつた。

小見益男氏退職 再生絹絲の方に研鑽を積まれてゐた小見益男氏(蠶三)は一年夫を断念されて母校に於て蠶絲總覽の編輯に當つて居られたが化學研究の道志

れ難く昨年五月母校蠶絲化學實驗場託となつて新らしい人造纖維の研究に没頭されて居たが遂に魚肉蛋白質を完成され新與人絹絲株式會社に迎へられ四月三十日付母校を退職、五月十一日時に新設された岐阜工場に赴任された。

母校關係職者慰靈祭 今事變に於て尊き犠牲となられた英靈を供養すべく、昨年秋講堂西側空地に建立された「日支事變職者供養塔」前に於て五月一日午前八時より慰靈祭が行はれた。供養塔前に校長以下全校職員生徒整列し別所常樂寺僧侶の讀經があり、次に井上校長、蒲生同窓會理事、生徒總代御子柴希太郎(蠶三)君の焼香があつて終了、續いて蠶絲供養祭を行つた。

蠶絲供養祭 養蠶期に入り掃立を十三日に控へた母校では數多くの蠶兒を犠牲にするので其の靈を慰むべく五月一日午前九時より蠶絲供養祭を執行了。例の蠶絲供養塔前に全校職員、生徒集合し別所の常樂寺僧侶の讀經があり井上校長、佐藤養蠶科長、生徒代表小山富治(蠶三)君の焼香があつて終了した。

校友會の新入生歡迎會

五月一日蠶絲供養祭後校友會主催の新入生歡迎會が名勝地小諸の懷古園に開催された。全校職員、備人、生徒一同は午前十時三十分上田驛發の列車に乘車、小諸城址懷古園に到着せるのが十一時十分頃、所定の場所に集合して校友會長井上先生の挨拶に始まり、宮田章君(蠶三)の歡迎の辭に、鈴木俊夫(蠶一)の答辭があり、兄弟として共に勵まふと言ふ和氣と意氣のこもつた情景の中に全員高らかに校友會歌を合唱し、井上會長の唱導にて上田蠶絲專門學校萬歳を三唱して會を閉じた。續いて現在小諸公園懷古園として知られてゐる此の小諸城址の起源、略歴、公園としての沿革、更に公園施設計畫の大要等に就て小諸觀光協會の大塚子明氏の講話を聞き懷古的、詩情的感銘を深めた。之で解散となり各自、眺望に逍遙し古蹟の探賞に時を遣つた。

遠藤教授「裁蠶學通論」を著す 母校教授農學博士理學士遠藤保太郎先生は已に「桑樹栽培學」日本桑樹栽培論「桑樹病理學」「桑樹實驗法」等多數の著書を上梓されて居るが、十年毎に回顧して前著の不備を補足するは著者の責任なりとの御主旨から今回改めて「裁蠶學通論」

(五〇四頁、定價三圓八〇錢、明文堂發行)なる新著を公にされた。該書は廣く裁蠶法の全般に亘つて系統的配備をなし各分野に於ては變遷の概要を説くと共に最近の試験成績と統計とを引用して檢討を試みられ、學習者、研究者のみならず一般實際家の好例の書であつて左の十四章に亘つて懇切に而かも要を得て述べられてゐる。關係諸賢の座右に備へんことを御推めする次第である。

緒論、植物學上の桑、作物としての桑、桑苗の繁殖、桑園の土壤、桑苗の植付、桑樹の仕立、桑葉の收穫、桑樹の榮養生管理、桑の葉質、桑園の經營。

紅葉山御覽所拜觀並に軍事見學 養蠶三年生一行三十三名は倉澤教授、小山少尉、小林副手引卒の下に五月五日午前五時十分上田驛發にて宮城內紅葉山御覽所拜觀に赴き、其他在京關係深き施設を見學更に、例年秋期に行はれてゐた軍事施設を見學の爲に横須賀に行き軍艦其他を見學して十日早朝歸校した。其日程は次の如し。

午前 午後  
五月五日 農事試驗場 東京高蠶  
五月六日 蠶絲試驗場 理化學研究所  
五月七日 日曜日にて自由見學、帝大の學内開放、新聞社等  
五月八日 御養蠶所拜觀、傳染病研究所見學後横須賀に行き海仁會集會所に宿泊  
五月九日 横須賀軍港、航空隊、戰艦長門

市村尚文氏新任 久しく病氣療養中であつた昭和三年卒業の市村尚文(舊名信雄氏(紡七))は全く健康體に恢復され五月五日母校副手を拜命、絹紡織科に勤務されることとなつた。

宮内副手嚴父逝去 母校製絲科副手宮内智氏の嚴父由松氏(五十八歳)は五月九日心臓麻痺にて逝去され十日郷里川中島にて葬儀が行はれた。謹んで哀悼の意を表する次第である。

第一回文化講義 本年度第一回の文化講義として五月十日午前十時より正午迄二時間に亘り講堂に於て前外務大臣吉澤謙吉閣下の「最近の國際情勢と今後の趨勢」と題しての講話があつた。對歐策に就いて五相會議のあつた折柄、主として獨逸を中心としての歐洲の情勢と今後の趨勢を語られて職員生徒に現下の認識を深め且つ多大の感激を與へた。

半田義雄氏新任 昭和十年卒業長野縣蠶業取締所野澤支所に勤務されてゐた半田義雄氏(蠶二)は家庭の事情にて退職五月十日母校副手を拜命、蠶に京大入學の市原政治氏の後任として遺傳學實驗室に勤務されることとなつた。

岡亭四郎氏新任 昭和七年卒業後愛知縣經濟部商工第一課に勤務されてゐた岡亭四郎氏(紡一)は五月十三日母校副手を拜命、絹紡織科に勤務されることとなつた。

紡二見學旅行 絹紡織科二年生二七名は小林清丸講師、西入辰に引率され五月十五日より六日間の豫定で、十五日午前一時三十六分上田驛發にて、工場其他の見學旅行の途に上り、桐生、日光、鹿沼、東京、横須賀、江之島、横濱を廻り二十一日歸校した。見學日程は左の如くである。

五月十五日 堀織物工場、桐生機械株式會社、桐生製絲工場、帝國製麻株式會社鹿沼製品工場  
五月十六日 東照宮參拜及拜觀、東京市荒川區大日本紡績株式會社  
五月十七日 日本製絨株式會社  
五月十七日 横須賀海軍工廠、航空隊、軍艦陸奥、潜水艦  
五月十八日 富士瓦斯紡績株式會社保土ヶ谷、横濱生絲検査所  
五月十九日 織維工業試驗所、横濱港内外編物株式會社、東京市昭利靴下株式會社、東京市工業大學、東京鋼材株式會社

細川麟師結婚さる 母校講師として蠶絲化學部に勤務される細川麟師(蠶十九)は今回良縁を得られ、井上校長先生の媒約に依り長野市大場正雄氏長女節子嬢と御結婚され五月十八日市内總宜亭に於て披露の宴を張られた。新婦は芳紀二十三年、秋田高女、長野文化學院卒の才媛である。末長く御圓滿の程祈る次第である。

山崎啓録氏講師となる 昭和十一年十一月母校を拜命、養蠶部事務を擔當、十二月圖書課勤務となり、今年五月養蠶實習指導場として實習指導と蠶絲總覽の編輯に當つてゐた山崎啓録氏(蠶十九)は副手兼講師となり一年生の英語を擔任されることとなつた。尙蠶絲總覽の編輯は依然續けられる譯である。

學校教練實施記念御親閱拜受 陸軍現役將校の中等學校以上男子學校配属司令官布十五年を記念する御親閱式は初夏の風薫る五月廿二日長くも、天皇陛下の行幸を仰ぎ、三重橋前廣場に於て全國學校學生生徒代表三萬二千五百餘名及び配属將校、職員等參加の下に戰時下意識一入深く舉行されたのであるが、母校より左記代表十三名が校旗を携行して廿日午後十時三十六分上田驛を發ち、實に吾教育史上空前の盛事である御親閱式に臨みその光榮に浴したのである。

生徒主事行元自忍氏、生徒主事補志賀章雄氏、教練教師囑託小山和夫少尉(配属將校高木千枝大佐病氣の爲)小山富治今井省吾、森本彰(以上蠶三)、御子柴希太郎、竹内五郎、小林剛(以上紡三)村本才登、川合信夫、東海林誠治、渡邊亮一(以上紡三)等の諸君。

須藤醇子氏新任 昭和八年卒業して昭榮製絲二日市工場に二年勤務、退職後自家にあつた須藤醇子氏(教一)は今回退職された磯村敏子氏の後任として五月廿二日製絲教授を命ぜられ製絲科に勤務、製絲實習及び裁蠶原助教授の研究を手傳はれることになつた。

校外實習生豫防注射 五月廿九日より製絲科三年生の校外實習開始を先驅に、蠶二、紡二、紡三の各學年の生徒が夫々近くは縣内各所から遠く九州、朝鮮に迄實習に出るので、學校では二十、廿四日の兩日に亘つて校醫に依り賜チアスの豫防注射をなし同實習生の健康に満全を期した。

五月五日 農事試驗場 東京高蠶  
五月六日 蠶絲試驗場 理化學研究所  
五月七日 日曜日にて自由見學、帝大の學内開放、新聞社等  
五月八日 御養蠶所拜觀、傳染病研究所見學後横須賀に行き海仁會集會所に宿泊  
五月九日 横須賀軍港、航空隊、戰艦長門

堀織物工場、桐生機械株式會社、桐生製絲工場、帝國製麻株式會社鹿沼製品工場  
東照宮參拜及拜觀、東京市荒川區大日本紡績株式會社  
日本製絨株式會社  
横須賀海軍工廠、航空隊、軍艦陸奥、潜水艦  
富士瓦斯紡績株式會社保土ヶ谷、横濱生絲検査所  
織維工業試驗所、横濱港内外編物株式會社、東京市昭利靴下株式會社、東京市工業大學、東京鋼材株式會社

母校講師として蠶絲化學部に勤務される細川麟師(蠶十九)は今回良縁を得られ、井上校長先生の媒約に依り長野市大場正雄氏長女節子嬢と御結婚され五月十八日市内總宜亭に於て披露の宴を張られた。新婦は芳紀二十三年、秋田高女、長野文化學院卒の才媛である。末長く御圓滿の程祈る次第である。

昭和十一年十一月母校を拜命、養蠶部事務を擔當、十二月圖書課勤務となり、今年五月養蠶實習指導場として實習指導と蠶絲總覽の編輯に當つてゐた山崎啓録氏(蠶十九)は副手兼講師となり一年生の英語を擔任されることとなつた。尙蠶絲總覽の編輯は依然續けられる譯である。

陸軍現役將校の中等學校以上男子學校配属司令官布十五年を記念する御親閱式は初夏の風薫る五月廿二日長くも、天皇陛下の行幸を仰ぎ、三重橋前廣場に於て全國學校學生生徒代表三萬二千五百餘名及び配属將校、職員等參加の下に戰時下意識一入深く舉行されたのであるが、母校より左記代表十三名が校旗を携行して廿日午後十時三十六分上田驛を發ち、實に吾教育史上空前の盛事である御親閱式に臨みその光榮に浴したのである。

生徒主事行元自忍氏、生徒主事補志賀章雄氏、教練教師囑託小山和夫少尉(配属將校高木千枝大佐病氣の爲)小山富治今井省吾、森本彰(以上蠶三)、御子柴希太郎、竹内五郎、小林剛(以上紡三)村本才登、川合信夫、東海林誠治、渡邊亮一(以上紡三)等の諸君。

須藤醇子氏新任 昭和八年卒業して昭榮製絲二日市工場に二年勤務、退職後自家にあつた須藤醇子氏(教一)は今回退職された磯村敏子氏の後任として五月廿二日製絲教授を命ぜられ製絲科に勤務、製絲實習及び裁蠶原助教授の研究を手傳はれることになつた。

校外實習生豫防注射 五月廿九日より製絲科三年生の校外實習開始を先驅に、蠶二、紡二、紡三の各學年の生徒が夫々近くは縣内各所から遠く九州、朝鮮に迄實習に出るので、學校では二十、廿四日の兩日に亘つて校醫に依り賜チアスの豫防注射をなし同實習生の健康に満全を期した。

五月五日 農事試驗場 東京高蠶  
五月六日 蠶絲試驗場 理化學研究所  
五月七日 日曜日にて自由見學、帝大の學内開放、新聞社等  
五月八日 御養蠶所拜觀、傳染病研究所見學後横須賀に行き海仁會集會所に宿泊  
五月九日 横須賀軍港、航空隊、戰艦長門

堀織物工場、桐生機械株式會社、桐生製絲工場、帝國製麻株式會社鹿沼製品工場  
東照宮參拜及拜觀、東京市荒川區大日本紡績株式會社  
日本製絨株式會社  
横須賀海軍工廠、航空隊、軍艦陸奥、潜水艦  
富士瓦斯紡績株式會社保土ヶ谷、横濱生絲検査所  
織維工業試驗所、横濱港内外編物株式會社、東京市昭利靴下株式會社、東京市工業大學、東京鋼材株式會社

母校講師として蠶絲化學部に勤務される細川麟師(蠶十九)は今回良縁を得られ、井上校長先生の媒約に依り長野市大場正雄氏長女節子嬢と御結婚され五月十八日市内總宜亭に於て披露の宴を張られた。新婦は芳紀二十三年、秋田高女、長野文化學院卒の才媛である。末長く御圓滿の程祈る次第である。

昭和十一年十一月母校を拜命、養蠶部事務を擔當、十二月圖書課勤務となり、今年五月養蠶實習指導場として實習指導と蠶絲總覽の編輯に當つてゐた山崎啓録氏(蠶十九)は副手兼講師となり一年生の英語を擔任されることとなつた。尙蠶絲總覽の編輯は依然續けられる譯である。

陸軍現役將校の中等學校以上男子學校配属司令官布十五年を記念する御親閱式は初夏の風薫る五月廿二日長くも、天皇陛下の行幸を仰ぎ、三重橋前廣場に於て全國學校學生生徒代表三萬二千五百餘名及び配属將校、職員等參加の下に戰時下意識一入深く舉行されたのであるが、母校より左記代表十三名が校旗を携行して廿日午後十時三十六分上田驛を發ち、實に吾教育史上空前の盛事である御親閱式に臨みその光榮に浴したのである。

生徒主事行元自忍氏、生徒主事補志賀章雄氏、教練教師囑託小山和夫少尉(配属將校高木千枝大佐病氣の爲)小山富治今井省吾、森本彰(以上蠶三)、御子柴希太郎、竹内五郎、小林剛(以上紡三)村本才登、川合信夫、東海林誠治、渡邊亮一(以上紡三)等の諸君。

小川助教新任 原田教授孤軍奮闘の吾物理學教室に新進氣鋭の小川朋次郎助教が五月二十五日付を以て新任された

同氏は埼玉縣羽生町の御出身で大正元年生の當年廿八歳、昭和三年北埼玉實業學校卒業、同九年私立東京修徳商業學校卒業、昨年東京物理學校高等師範科物理化學部を卒業されて修徳商業學校數學科囑託、農林省水産講習所助手を勤められ現在に至つたもので、篤實、勤勉にて實に明期、柔道以外の運動は一通り手を染めて居られ特に弓道並に寫眞に御趣味がある由、この二月御結婚され、近く市内新夢町に新居を持たれるとの事。其の兼備される學徳を御期待する次第である。

製絲科三年生校外實習 製絲科三年生二十八名は五月二十六日午前中にて第一學期授業を終へ全二十九日より六月三日迄横濱神戸兩生絲検査所に分れて生絲検査を實習、六月六日より七月末日迄約二ヶ月間別記各地工場及滿檢定所にて夫々要務見習を行ふ事となり已に實習地に赴いた。(實習先は別記の通りである)

蠶二年生の蠶業視察 現に蠶兒保育中の養蠶科二年生は十七名宛交代に、第一班は浦生教授、瀧澤副手引卒の下に、第二班は宮坂講師、關副手引卒の下に五月二十九、三十の兩日蠶業試驗場上田支場染織試驗場、麗尻村の藤本蠶業株式會社其他二、三蠶種家、一般農家を見學視察した。

御親開拜受報告式 陸軍將校學校禮屬令公布(大正十四年)十五年記念御親開拜受の報告式が五月廿一日午前八時より母校講堂に於て行はれた。先づ校長が其の意義ある御親開の御趣旨から、下賜された御勸語並に全國高専校長會議に於て御勸語に答へ奉る決議文等に就いて述べ、時局の認識、教育の振作を強張され、次いで生徒代表受者の小山富治(蠶三)村本才登(紡三)兩君の感激報告があつた

松田明文氏新任 昭和十一年十月より十三年一月迄母校圖書課に勤務され、兵役に退職された松田明文氏は松本聯隊入營後、戦地に於ても活躍され過般除隊して再び五月廿一日母校を拜命、學生課に勤務されることとなつた。

磯村敏子氏退職 製絲科教授磯村敏子氏(教五)は家庭の都合上五月三十一日付を以て退職せられた。同氏は昭和十二年教養養成科卒業以來教職として生徒の蘭檢並に萩原助教の研究の助手として勤められたものである。

厚生資金提出 讀賣新聞社が行つてゐる今事變戦死者遺族並に職傷勇士厚生資金募集に母校も欣然参加、五月廿一日校長以下職員、生徒提出の金壹百圓貳拾四錢也を同社上田支局を經て據托した。

學生服裝訓令改正と長髪禁令 昨年三月十二日付揭示の、學生服裝訓令に於ける「制限制帽着用の事」靴は黒革編上靴とす。但し短靴を有するものは教練其他必要の場合の外は許可す。」を時局柄之を緩和し、四月一日付揭示にて當分次の如く實施することにした。

一、洋服は成るべく新調せざる事、従つて中等學校時代使用のものにて可なり、但し鈕は本校制定のものに附ける事、止むを得ず新調せんとする者は學生課を通じて學校長の許可を受くべし。

二、教練實施の際には教練服、靴又は地下足袋使用の事。

三、特に命ぜられたる場合の外は下駄履にて登校を許可す。

尙長髪禁令は昨年「長髪を禁じ丸刈とす。但し大秃頭及び第三學年三學期に於ては之を許可す」と揭示したのであるが、其の後遺令する者あるを遺憾とし、之を改めて六月六日付にて次の揭示を出し徹底せしむることとなつた。

「學生中長髪なる者は今週中に丸刈とすべし、尙卒業する迄は學生全部丸刈となすことに決定したるに付左様承知し置くべし。」

母校蠶況 蠶三年生の六〇品種の系統維持飼育及び原種育は一人二〇蠶育で五月十三日掃立最も早いのが上簇中で(六月九日現在)で蠶二年生の普通經濟育は日一〇×支一〇七、歐一九×支一七、歐一八×支一〇七、歐一九×支一〇七、浙江×龍華仙の五品種を一人三五宛飼育五月十四日掃立並大八日目で(六月九日現在)である。

天柞蠶經過 數年來天柞蠶の飼育試驗及び之に關する種々の研究をしてゐる母校昆蟲學教室では本年も母校及び松本市外有明演習林に於て開始し、倉澤教授指導の下に武井副手、蠶三年生の加子三郎小川泰弘、濱村長久、宮澤久雄の四君が之に當つてゐる。母校に於ける山付は天蠶五月十三日、柞蠶十四日で、天柞蠶飼育適温試驗の廿八度飼育は六月三日已に上簇、廿四度は九日上簇、廿度は五齡三日目(九日現在)有明に於ては五月二十日山付にて、六月四日現在に於て一齡六日目で、兩者共、例年より發育良好である。

各校外實習豫定 例年の如く校外實習の時期となり、製絲三年生は別記の如く已に開始されたが、其の他の校外實習豫定は左の如くである。各位には宜敷御世話、御指導を御願ひする次第である。

新任御挨拶 謹啓 向暑の候益々御清稔之段奉慶賀候。陳者私事今本校に勤務致す事と相成候に就ては今後宜敷御指導御鞭撻賜り度奉懇願候。先は乍略儀以紙上御挨拶申度候。御願ひ如斯御座候。 敬具 昭和十四年六月 小川朋次郎

轉任御挨拶 謹啓 時下新緑の候益々御清稔の段奉慶賀候。陳者私儀全羅北道靈巖郡所長に就任候に就ては今後宜敷御指導御鞭撻賜り度奉懇願候。先は乍略儀以紙上御挨拶申度候。御願ひ如斯御座候。 敬具 昭和十四年五月 全羅北道靈巖郡 工藤見吉

新任御挨拶 謹啓 初夏の候益々御清稔の段奉慶賀候。陳者私儀郷里にて病氣療養中は兎角御無沙汰に打過候。段深く御詫申上候。御蔭様にて全快致し今母校に就ては今後宜敷御指導御鞭撻賜り度奉懇願候。先は乍略儀以紙上御挨拶申度候。御願ひ如斯御座候。 敬具 昭和十四年六月 市村尙文

新任御挨拶 謹啓 初夏の候益々御清稔の段奉慶賀候。陳者私儀愛知縣經濟部商工第一課勤務中は多入なる御勞情を忝ふし奉深謝候。今般右を依頼退職致し母校に就ては今後宜敷御指導御鞭撻賜り度奉懇願候。先は乍略儀以紙上御挨拶申度候。御願ひ如斯御座候。 敬具 昭和十四年六月 岡 亨四郎

新任御挨拶 謹啓 新緑薫る初夏の候益々御清稔の段奉慶賀候。陳者小生儀長野縣蠶業取締所野澤支所在勤中は多大なる御懇情に預り有難感銘仕候。今般都合により同所を退職致し母校副手として養蠶科に勤務致す事と相成候に就ては不変御指導の榮を賜り度願上候。先は乍略儀以紙上御挨拶申度候。御願ひ如斯御座候。 敬具 昭和十四年五月 半田義雄

新任御挨拶 謹啓 時下益々御清稔の段奉慶賀候。陳者私儀養蠶に本校奉職中並に兵役服務中は種々御厚情を忝ふし奉深謝候。今再々本校に奉職し學生課に勤務致す事と相成候に就ては今後宜敷御指導御鞭撻賜り度奉懇願候。先は乍略儀以紙上御挨拶申度候。御願ひ如斯御座候。 敬具 昭和十四年五月 松田明文

新任御挨拶 謹啓 青葉若葉の蔭を慕ふ初夏が訪れて参りました。昔々様には愈々御清稔の御事と存じ大賀申上ます。陳者私事今度母校製絲科に教師として勤務致す事となりましが素より未熟の者でございますが今後共宜敷御指導と御鞭撻の程をお願ひ申上ます。先は取敢ず紙上に御挨拶申上ます。 敬白 昭和十四年六月 須藤静子

御挨拶 謹啓 向暑の候益々御清稔の段奉慶賀候。陳者本紙前號にて御承知の事と存候。母校人事課に御折柄誠に御同慶至極に存候。該部新設に伴ひ不肖私儀其の任に當る事と相成候。素より未熟の者にて非ざるも各位の御懇篤なる御指導に依り其重責を果し度存候。御鞭撻の程奉懇願候。右御挨拶申度候。御願ひ如斯御座候。 敬具 昭和十四年五月 人事課 町田 博





支會通信

山形千曲會だより

拜啓 時下深緑の候、皇軍の戦勝は世界平和を堅持し併せて東亞建設上同慶と存じます。随つて出征なされた我が母校卒業諸兄並關係將兵の武運長久を御祈りすると共に、名譽の戦死者に對しては謹んで感謝と弔意を表します。尙全國の諸兄各位も長期建設と云ふ國策に順應して精勵して居ること、信じます。扱て農林省の大先輩原田學兄が久し振りで郷里に御歸りになられたので近況を御知らせ致します。五月七日縣立山形中學校卒業から成る山形同窓會總會に出席するとの例の通り簡文な速報に接しましたので、同日朝M氏が山形驛に御迎への上元氣のよい大兄に接せられ直ちに山形同窓會に御出席、當日は總會後會の事業として多數會員傍聴の下に大講演會あるとのこと、然も講師は何と原田學兄の一人舞臺と來て居り、時局柄大望せらるゝ農林省主唱の重要農産物の増産計畫に就いてと云ふ題下に約二時間の雄辯を振はれ、聴者が有識階級者許りなので多大の感動を與へられ我等千曲會員有志も親しく學兄の能舌に接するの光榮を得ました。講演會終了後は市内〇亭に於ける山形同窓會主催大懇親會に御招待せられ大部「メートル」を擧げられた頃、我が千曲會員有志として一席御懇談を願ひ居ること、市外某温泉に遠出を乞ひ、二次會でもあり大部御疲れの様であつたが久し振りにてゆつくりした氣分で明朗な御懇談を拜聴し得られました。翌八日は折良く縣養蠶業組合で蠶増産計畫に關する會議があり高橋會長より特に懇望せられたので、私人として出席せられ参考事項を御指示、終了後大懇親會にも臨まれ同夜元氣よく急行にて御歸京なされたのである。僅か二

日の日程で全く眼の廻る様な「プログラム」には御氣の毒でしたが、縣民としては豊利に欲した事を深く信じてました。其の上我が母校の名譽の爲めにも此の種の行動は寔に有意義として將來とも注目すべきことで、全國に斯くの如き「チャンス」の多からんことを痛感して筆を擱く (新野人生)

みすゞ會より

岡先生來宮、いつもながら御元氣なお姿となごやかなお顔に接し同窓生一同は唯々喜しく思ひます。先生をお囲み申しいる〜とお話しを承り又一宮のお便りも申し上げ、初夏の一夜を昔にかへつた氣持ちになりました。次ぎから次ぎへと話ははずんでゆき遂に拾壹時近く迄になつてしまひました。初夏の夜は更くるに早い。校歌、寮歌、應援歌とつゞき先生の發聲にて萬歳に目出度會を閉づる事を得ました。末筆ながら先生がお忙しにも關らず私達の貧弱な會に快く御出席下さいました事を厚くお禮申し上げます。

戦地通信

野田太郎氏より

時下愈々御健勝にて御過しの事かと存じます。お蔭様にて自分も北支第一線にて警備の任に就き、至極旺盛で軍務に精勵致して居ります。故年他事御放棄下さい。當地方も占領以來早くも八月月を經過し今日では治安の回復全く成り、醫術治療所を初め支那人子供の學校迄開設されて居る有様です。目下菜の花、櫻、梨、林檎等の花盛りです。それでも日中は早や初夏の陽光が兵隊達を惱まし初めました (四月十一日)(校長宛)

羽藤泉氏より

御無音仕りまして何とも申譯も無き次第であります。先生には御變り無く御過してあります。先生は漢口突入後しばらくして當方に移動致しました。移動後後記の部隊に屬しまして、殘敵討伐に或は發奮に協力を續けて居ります。中支方面に於ける程花々しいことは有りませんが、想像以上の苦心をすることは有ります。先々月から先月へかけては〇〇攻略に参加致しましたが、泥濘には全く閉口致しました。兎に角麥田の中を〇〇も馬も人も突き進むのですから雨でも降れば大變です。吾々は雨の爲一夜人馬共立往生しました。然し現在では〇〇並に鐵路〇〇線も吾々に歸し、修理も日夜續けられ、近く完成されるものと存じます。これが全通の曉は建設工作に、經濟工作に、大いに貢献することとせう。一方建設戦も相當進展致し、今では『提倡東方文化』努力生産工業』等のホスターが見受けられます。又商業經營の爲當北支に入り込む内地人は日々數百を數へると云はれてゐます。武力戰の進展と共に都市から田園地方へと面目を一新して來ることと思ひます。先は御無音御詫びつゝ近況御通知申し上げます。 (四月十六日)(校長宛)

古平義雄氏より

時下陽春之候益々御清祥之段奉賀候。

陳者小官儀入隊以來至極頑健にて軍務に精勵致居り候處今回大命を拜し、與亞大陸に向つて進發途中無恙任地に到着仕候。此の上は與亞建設の一石として滅私奉公各位の御期待に副ふべく努力いたす所存にて有之候條一層の御鞭撻の程願上候。尙留守中何かと御世話様に相成候へ共よろしく御願申上候。先は不取敢任地に到着の御挨拶申述度如斯御座候。 (四月十九日)(校長宛)

田澤輝雄氏より

愈々初夏の候とも相成り先生には益々御健勝にて母校の爲御働きの由大慶の至りに存じます。先生の渡支中、杭州等へ御廻りの由吾等も富陽、湖州等の戦には一時駐屯致し思ひ出を致した地でした。先生のお出の時も吾等親友も居た事でせうが皆殘念がつて居る事と存じます。小生もお蔭にて無事毎日行動致し居ります。春も一瞬に過ぎ今や眞夏大陸の炎天下に黃塵を上げてぶつ轉ばし居ります。當分亦、通信もない筈なのに偶然、先生のお便りを頂きました次第、後数日て手に入らぬのに喜びました。長期建設非常時の續く折母校の爲、統後産業の爲、活躍を續ける先生には時節柄御身御大切に程切に御祈り申し上げます。 (四月三十日)(倉澤先生宛)

秋山實氏より

お暑くなつて参りました御伺ひ申上致します。何時も思ひ乍ら御無沙汰勝で申譯ありません。小生も出征以來、益々頑健御奉公して居りますから他事乍ら御放棄下さい。只今は夏でも蚊の居ぬと云はれて居る支那ではめづらしく涼しい中支の或る山中にて精勵して居ります。この山は日中、夜は佛法僧やかつこう鳥が鳴き内地の味が深く御座居ます。近くの農家は水牛を使つて田植の用意や麥刈に忙しく、又一方町はどしどし復興して來その和協建設振りは素晴らしいものがあります。聖戰の意義を理解し、軍人として御祈り申上致します。未筆乍ら先生の御健康をお祈り申上致します。亂筆亂文乍ら御伺ひ申上近況まで。 (林先生宛)

望月藤夫氏より

先生、其後は本當に御無音に打過ぎ失禮のみ致して居ります。御變りなく御元氣で御座居ますか、御伺ひ申上します。降りて小生も至つて元氣に軍務に精勵致し居りますれば他事乍ら御放棄下さい。小生も昨年補充兵として入隊、餘り丈夫でない體に鞭打つて三月の末甲種幹部候補生に採用され、四月の一日當校に入校を命ぜられ、只今教育の最中で御座居ます。毎日々々猛演習に、學科に、將來の少尉目指して何も彼も忘れてやり居ります。弱かつた體も訓練の御蔭にて至つて健康となり來り喜んで居ります。そして世の中の凡ての事は皆、自分の氣持次第にて何うにもなるものだと思致し、甲種幹部候補生の試験も可成り六ヶ敷きもので御座居りましたが、之も氣に任せて征服致し精神力の偉大さにはつくづく驚いた様な次第です。大阪の聯隊より當校に來る途中、東京へも立寄り農林省にて渡邊君に會ひ、卒業後の初對面にて本當に懐しきものが御座居りました。渡邊君も、子供が工合が悪いと云つて心配致して居りましたが、こんな言葉を聞くにつけても自分の同級生も子供の事を心配する様になつたと思へば淋しい様な氣も致しました。此の夏は花巻の多田君も歸省の途中立寄るのを楽しみにして居る旨便りあり、多田君の來訪を楽しんで居る次第です。當校には十月の末迄滞在の豫定にて再び大阪の方へ歸る事となつて居ります。今年の就職状況は至つて良好の由、聞きましてが何よりの事で御座居ます。今年の郡是の方も二人行かれた模様にて大いなる期待を以て再び〇〇君の如き状態にならぬ様にと祈り居る様な次第です。大阪の聯隊へ歸る十月には是非上田に立寄りたく今より楽しみに致して居ります。 (五月六日)(倉澤先生宛)

五月六日(倉澤先生宛)

(林先生宛)

訃報

成澤榮一氏逝去

昨年卒業して長野縣藤原郡所領之井支所に勤務されてきた成澤榮一氏(絲二五)が肋膜炎及胃潰瘍で五月十九日上田市の松井病院にて逝去された旨學生中村登一郎君(紡三)から通知があつた。同氏は昨年七月から入院加療中であつたが、石炭功がなかつたもので、謹んで哀悼の意を表する次第である。

弔慰金報告

故兒玉慶次氏弔慰金第五回 金五圓也 河井 正 累計金四拾參圓也 故小島杉門氏弔慰金第四回 金貳圓也 中島 茂司 金壹圓也 上林多兵衛 金崎 眞英 右合計金四圓也 累計金參拾貳圓也

弔慰金募集

故竹村 中和氏(蠶 十) 故大名 昇氏(蠶 一) 故成澤 榮一氏(絲廿五) 右三氏に對し弔慰金を募集致します 故竹村氏は六月末日、故大名氏は七月末日、故成澤氏は八月末日迄に取組め御遺族へ贈呈致したいと思ひますから夫れに間に合ふ様振替口座東京四三三四一番へ夫々故人に對する弔慰金の旨御記入の上御拂込下さい 昭和十四年六月 千曲會

故井手末馬氏 御遺族よりの禮狀

亡夫井手末馬事在世中は御親切なる御指導と御後援の友情を辱ふし奉拜謝候 今回死去に際しては殊に有意義なる御手厚き御同情の御弔訪を賜はり感激感謝の至りに不堪候 末馬の靈と共に謹んで厚く御禮申上候 昭和十四年五月 井手 ミ ハ 千曲會御中

故成澤榮一氏 御遺族よりの禮狀

智徳院榮進日成信士 葬送に際しては御尊重なる御弔詞を賜はり難有厚く御禮申上候 以御蔭様佛事法要無滞相濟候に就而生前

の御高誼と併せて奉深謝候 先は不取敢御禮申述度如斯御座候 昭和十四年五月 樺太眞岡町旭町三五 父 成澤 榮 治

故小川春男氏弔慰金第三回 金貳圓也 生井 精一 望月 太一 右合計金五圓也 瀧澤啓四郎 累計金貳拾貳圓也 故服部令吉氏弔慰金追加分第二回 金貳圓也 田近 肇 累計金拾壹圓也 故大名昇氏弔慰金第一回 金壹圓也 小林 茂樹 工藤 一三三 右合計金貳圓也

成澤君を悼む

四月始め私が母校に來た時に、成澤君が松井病院に入院してゐると宮尾君から

聞いて驚いた。宮尾君が見舞された頃は、君は稍々元氣な様子で醫師も樂觀するに到つてゐた程だつたが、その後再び病勢高じ、最近には面會も許されないう状態に來てゐることだつた。私はその爲に一時御見舞するのを差し控へ、元氣の爲の拜見出来る日を心待ちにしてゐた。必ず元氣な姿が見られると信じ且つ祈つてゐたのである。

『成澤さんが亡くなりました』と千曲會館で聞き知つた時の驚きは、天は無情にも一度の面會も許さずして私から君を連れ去つてしまつた。何たることぞ。成澤君は永遠に私から姿を消してしまつたのだ。私は驚きと悔恨にも似た氣持で呆然となつた。

早速松井病院に行き臨終の模様を聞いた君は去年九月末入院された。その時既に身体は可成り衰弱してゐた。遠き教郷から兩親、従妹が來られた。一時危がまされた容態も松井醫師の懇切なる手當と家族の方の心配の看護の甲斐あつて小康を得られ、漸く兩親も歸郷せられ唯従妹のみが看護に残られに到つた。然るに亦々容態悪化し、且つ胃腸その他餘病併發するに及び、醫師の努力も空しく最早絶望に陥る。急遽來田せられた兩親に見守られつゝ遂に君ははかなくも黄泉の客となられた。

君は遠い樺太の生れた。君は性温厚にして文藝特に詩歌が好きのまうだつた。樺太の話、アイヌ人の生活等は面白く楽しく聞かせてくれた。クラス會に聞いたアイヌの民話(?)は君と共に想ひ浮んで來る。亦スポーツに於ても在學中は庭球選手として蠶專の爲萬丈の氣を吐いてくれたものだ。しかし君は三年頃から身体が幾分弱つたやうだつた。君は昨年卒業後蠶絲の道に進むべく、蘭檢定所に就職された。前途を期待された君を病魔の爲に失ふとは。天命とはいへ餘りにはほかない一生涯。異郷の地に愛兒に先立たれ、さびしく野邊の送りなされた御兩親の上を思へばそる涙を禁じ得ない。茲に今は亡き君を偲び同情に堪えず、只管御冥福を御祈りする次第である。

會員動靜 (六月五日)

- 小見 益男(蠶 三) (勤)岐阜市本莊、新興人相岐阜工場(住)岐阜市本莊中鍵屋町一丁目 (勤)京都府綾部町、那是製絲科學研究所(住)綾部町本宮一八 (勤)新都市豊樂路一那ビル内滿洲種子配給協會(五月號時報訂正) 安仲 勳(蠶 九) (勤)京都市左京區北白川、京都帝大農學部遺傳學教室(住)京都市左京區松ヶ崎堀町一八(住所、移動並二訂正) 西山 市三(蠶 九) (勤)京畿道水原、朝鮮總督府農事試驗場蠶絲部 後藤 伯綱(蠶 九) (勤)本校學生課(住)上田市海野町四七二 桂 應 祥(蠶 一) (勤)全 右 九合喜右衛門(蠶 一) (勤)長野縣諏訪郡富士見村、諏訪農學校(住)富士見驛前新道(舊兵庫支會) 今村 良郷(蠶 一三) (勤)愛知縣丹羽郡布袋町、愛知縣蠶業試驗場(住)布袋町本町四丁目(五月號時報訂正) 大越 信(蠶 一四) (勤)福島縣郡縣郡喜多方町、福島縣蠶業取締所喜多方支所 朴 世烈(蠶 一六) (勤)大邱府新川洞、慶尙北道原蠶種製造所(住)全上官舎 白 健濟(蠶 一七) (勤)北京東安門裡大街二一號、明治公司 池本 勇(蠶 一九) (勤)津市、三重縣蠶業取締所津支所 芝野 三郎(蠶 二〇) (住)水戸陸軍病院 (勤)和歌山縣新宮市新宮中學校(住)新宮市口山町 小林 輝夫(蠶 二一) (勤)新潟縣古志郡下鹽谷村、新潟縣立栲尾實業學校(住)古志郡栲尾町(舊北信支會) 岡島 龜治(蠶 二二) (勤)松本市蠶玉町、片倉普及團(舊、鹿兒島支會) 半田 義雄(蠶 二二) (勤)本校蠶科(住)上田市常入 (勤)群馬縣利根郡沼田町、群馬縣蠶業取締所沼田支所 岡庭 武治(蠶 二三) (住)沼田町村木町二一八清水方 (勤)津市、三重縣蠶業取締所津支所 關 政二(蠶 二三) 召集解除(住)長野縣更級郡桑原村一五八二 (勤)南佐久郡野澤町、長野縣蠶業取締所野澤支所(舊、龍川支會) 吉田 信伍(蠶 二三) (勤)陸軍病院 山田 一次(蠶 二三) (勤)前橋市、群馬縣蠶業取締所前橋支所(住)前橋市岩神町 横澤 正雄(蠶 二三) 九〇杉山キク方、電話前橋四六五 (勤)奉天省西豊縣農事合作社(舊、東海支會) 加藤 沼二(蠶 二四) (應召) 島田 博(蠶 二五) (勤)沼津市、沼津毛織株式會社 (應召) 佐藤 祐三(蠶 二五) (勤)沼津市、沼津毛織株式會社 (應召先變更) 堀口 友治(蠶 二六) (勤)從前通り(住)東京市葛飾區龜有町四ノ七二三樋口方 清水 英人(蠶 二六) (勤)松本市、片倉普及團 (勤)滿洲國熊岳城、熊岳城農事試驗場蠶絲課 鈴木 彦佐(蠶 二六) (勤)滿洲國熊岳城、熊岳城農事試驗場蠶絲課 橋本 正太郎(蠶 二六) (勤)東京市麹町區大手町、農林省蠶絲局產繭課(住)東京市瀧野川區田端町一二二九田秀雄方 谷澤 衛(蠶 二六) (勤)中支江蘇省無錫毛梓橋、華中蠶絲無錫支店(住)全上 田中 三郎(蠶 一) (勤)三重縣三重郡大矢知村垂坂、龜山製絲五島工場(住)全上社宅 酒井 五十三(蠶 二) (勤)長野縣上伊那郡伊那富村、武井製絲所(舊、東海支會) 中村 吉男(蠶 五) (勤)岡谷市、片倉尾澤製絲所(住)長野縣上伊那郡朝日村(舊、龍川支會)

- 柳原 春彦(絲八) (勤)從前通り(住)福島縣信夫郡野田村大字八島田字知添
川船 卓爾(絲一〇) (勤)熊本市田崎町三四〇、片倉熊本製絲所(住)熊本市田崎町三四〇(舊、山陰支會)
西田勇三郎(絲一六) (勤)兵庫縣成松町、那是製絲成松工場(舊、山陰支會)
小林 清志(絲一七) (勤)鳥取縣倉吉町、那是製絲倉吉工場(住)倉吉町銀治町二丁目(舊、丹後支會)
秋山武一郎(絲一九) (勤)高根縣今市町、那是製絲今市工場(住)今市町相生町(舊、朝鮮支會)
石井 清六(絲二〇) (應召)
大岩 巖(絲二一) (應召先變更)
中山 泉(絲二二) (勤)松本市埋橋一七日本絹化學工業所松本工場(住)長野縣東筑摩郡中山村和泉
今村 覺治(絲二三) (勤)愛知縣一宮市、片倉愛知製絲所(住)全上(舊、丹後支會)
岩切 作次(絲二四) (應召先變更)
稻垣文一郎(絲二五) (勤)愛知縣額田郡幸田村、吳羽紡績幸田工場(住)全上住宅
赤尾 文顯(絲二六) (應召)
山口 澄平(絲二七) (勤)廣須賀海軍航空技術廠兵器部四科(住)濱濱市磯子區金澤町谷津一〇〇番地
羽田 滿(絲二八) (勤)先改稱(愛知縣額田郡幸田村、吳羽紡績幸田工場)全上住宅
小林 相模(絲二九) (勤)東京府北多摩郡仙川、東京蘭毛工業株式會社(住)東京市世田ヶ谷區池尻町三六九
中島 德健(絲三〇) (勤)高根縣高津町、出雲製織石見人絹工場
富永 恭一(絲三一) (勤)東京帝大航空研究所發動機部(住)東京市世田ヶ谷區北澤四ノ四一〇中土孝儀方
小川 典二(絲三二) (勤)埼玉縣北足立郡大宮町、片倉大宮製絲所
長澤 四郎(絲三三) (勤)從前通り(住)東京市澁谷區代々木上原町二九五代々木會館
石原 二人(絲三四) (勤)熊本市内坪井町一七、肥後製絲株式會社
山岸琢治郎(絲三五) (勤)東京市日暮區駒場、東京帝大航空研究所發動機部(住)東京市澁谷區代々木當ヶ谷町一四二五河備新造方
高品喜一郎(絲三六) (勤)從前通り(住)福井市外四ツ居二四〇二七
岡 亨四郎(絲三七) (勤)不校絹紡織科(住)上田市鷹匠町、岡德治郎方
久芳 大三(絲三八) (應召)
齋藤 生實(絲三九) (入營)
平林 孝方(絲四〇) (應召先變更)
福永 雄三(絲四一) (入營)
金井 忠義(絲四二) (應召先變更)
藤取 稔(絲四三) (勤)長岡市藏王町、日本纖維工業株式會社
岡田 信男(絲四四) (勤)廣島縣佐伯郡小方村、新興人絹株式會社大竹工場
柴田 利男(絲四五) (勤)沼津市、沼津毛織株式會社
石立 輝久(絲四六) (勤)東京市向島區香取町大東紡織總戶工場
淺井 清(絲四七) (勤)富山縣射水郡大門町、吳羽紡績大門工場
兒玉 孝(絲四八) (勤)小池ト改姓(住)滿洲國ハルビン市南崗區花園街一五〇三
宮島志壽子(絲四九) (勤)小枝教養成科(住)長野縣小縣郡神村町古里一三〇六
須藤 靜子(絲五〇) (勤)本校教養成科(住)長野縣小縣郡神村町古里一三〇六
萩原マサジ(絲五一) (勤)正改改メマサジ(勤)新東京特別市日本橋通り三〇、滿洲綿業聯合會
磯村 敏子(絲五二) (勤)ナシ(住)上田市常入新町
進藤 憲三(絲五三) (勤)青森市外淺湯溫泉
高木 徳男(絲五四) (勤)福井市山奥町金鋼丸九一、錦華績株式會社

投稿規定

一、内容は不問、平易なる學術研究、會員消息に關する物は特に歡迎。取捨は當方に一任せられたい。編輯の都合に依り全部又は一部を來月週しとする事がある。

編輯室より

△「其の船停つた」海外へ行く者に政府が馬鹿に神經を尖らせてゐる折柄、吾が林教授の歐米絹業視察旅行に出張の許可を與へられたのは生絲の重要性認識から出たものか、文部省が直接腹を痛めた所から来たものか。

サトウ商会

- 運動用具 化學藥品 度量衡器 掛圖全般
信濃教育株式會社
東京本店 電話日本橋(24)三三番
長野支店 電話二七三四番
上田支店 電話一四一四番
松本支店 電話五七三番

廣告規定

一、原稿紙は御請求次第送附す。普通の原稿紙を使用する場合は一行十八文字書込まれ度い。

Table with columns: 寸法, 期間, 一月, 六月, 一年. Rows: 1頁, 1/2頁, 1/4頁, 1/10頁, 1/20頁, 1/40頁.

但し本會員は七掛とし、尙詳細は御照會下されば御回答申上げます。

- 化學藥品 上田市原町 山崎山林堂
化學染料
農業藥品
純良藥品 寫真材料
三共農業藥品ウズブルン
東信代理店
上田市海野町
河合商會
電話 八二五(片平町試驗室)

優良蠶種案内
昭和十五年度春蠶種
×分白一號 絲質特優
×分白二號 絲質特優
×分白三號 絲質特優
×分白四號 絲質特優
×分白五號 絲質特優
×分白六號 絲質特優
×分白七號 絲質特優
×分白八號 絲質特優
×分白九號 絲質特優
×分白十號 絲質特優
×分白十一號 絲質特優
×分白十二號 絲質特優
×分白十三號 絲質特優
×分白十四號 絲質特優
×分白十五號 絲質特優
×分白十六號 絲質特優
×分白十七號 絲質特優
×分白十八號 絲質特優
×分白十九號 絲質特優
×分白二十號 絲質特優
×分白二十一號 絲質特優
×分白二十二號 絲質特優
×分白二十三號 絲質特優
×分白二十四號 絲質特優
×分白二十五號 絲質特優
×分白二十六號 絲質特優
×分白二十七號 絲質特優
×分白二十八號 絲質特優
×分白二十九號 絲質特優
×分白三十號 絲質特優
×分白三十一號 絲質特優
×分白三十二號 絲質特優
×分白三十三號 絲質特優
×分白三十四號 絲質特優
×分白三十五號 絲質特優
×分白三十六號 絲質特優
×分白三十七號 絲質特優
×分白三十八號 絲質特優
×分白三十九號 絲質特優
×分白四十號 絲質特優
×分白四十一號 絲質特優
×分白四十二號 絲質特優
×分白四十三號 絲質特優
×分白四十四號 絲質特優
×分白四十五號 絲質特優
×分白四十六號 絲質特優
×分白四十七號 絲質特優
×分白四十八號 絲質特優
×分白四十九號 絲質特優
×分白五十號 絲質特優
×分白五十一號 絲質特優
×分白五十二號 絲質特優
×分白五十三號 絲質特優
×分白五十四號 絲質特優
×分白五十五號 絲質特優
×分白五十六號 絲質特優
×分白五十七號 絲質特優
×分白五十八號 絲質特優
×分白五十九號 絲質特優
×分白六十號 絲質特優
×分白六十一號 絲質特優
×分白六十二號 絲質特優
×分白六十三號 絲質特優
×分白六十四號 絲質特優
×分白六十五號 絲質特優
×分白六十六號 絲質特優
×分白六十七號 絲質特優
×分白六十八號 絲質特優
×分白六十九號 絲質特優
×分白七十號 絲質特優
×分白七十一號 絲質特優
×分白七十二號 絲質特優
×分白七十三號 絲質特優
×分白七十四號 絲質特優
×分白七十五號 絲質特優
×分白七十六號 絲質特優
×分白七十七號 絲質特優
×分白七十八號 絲質特優
×分白七十九號 絲質特優
×分白八十號 絲質特優
×分白八十一號 絲質特優
×分白八十二號 絲質特優
×分白八十三號 絲質特優
×分白八十四號 絲質特優
×分白八十五號 絲質特優
×分白八十六號 絲質特優
×分白八十七號 絲質特優
×分白八十八號 絲質特優
×分白八十九號 絲質特優
×分白九十號 絲質特優
×分白九十一號 絲質特優
×分白九十二號 絲質特優
×分白九十三號 絲質特優
×分白九十四號 絲質特優
×分白九十五號 絲質特優
×分白九十六號 絲質特優
×分白九十七號 絲質特優
×分白九十八號 絲質特優
×分白九十九號 絲質特優
×分白一百號 絲質特優

なくちや吾々も眼り合ひがない。然しこの満期も早慶期の慈雨に終らないで欲しいものだ。
△長期戦下の經濟政策が種々と検討されリンク貿易も重要な話題となり實施される折柄、母校小泉講師の「リンク貿易に就て」の玉稿を得、啓發される所大である。各位よ必讀あれ。
△倉澤教授は「滿支旅行漫筆」を續いて執筆下さつた。華中蠶絲が何れ程仕事をやるか、手段と人材に就て考へて行かねばなるまい。工業大學の江端氏が一人ちや淋しいと見えて後輩を誘つてゐる。希望を有する方はありませんか。
△生徒代表榮えの御親閱を拜受す、興旺の若人としての素地は出来てゐるか、青少年學徒に下し賜はつた御勸諭に慚ることあつてはならない。之が全學徒に徹底して立ち上つたら凄い力だ。
△校外實習期に入つて例年の如く各地に生徒が出て行く、先輩たる各位には、時局下の御指導と啓發を御願ひします。
△梅雨期から夏が來ます。お互に益々健康で朗らかにありたいものです。暑中見舞廣告を募集す、冗費節約が出来、特に親しみの湧く吾等が時報を利用下さい。
千曲時報編輯室
小松 忠一郎
山田 良博
久保 藤一